

こなとこるに



1、富士山のように
広く思いやりの心をもち
たがいに助け合います

▽富士米穀卸の皆さんによるもちつき



市民だれもが毎日を楽しく幸せに生活するための誓い「富士市民憲章」。市民憲章の実践は難しそうですが、多くの皆さんが、ふだん気がつかずに実行しています。そこで、今回からさりげなく市民憲章の心を実践している皆さんをシリーズで紹介します。

もちつきサントを20年

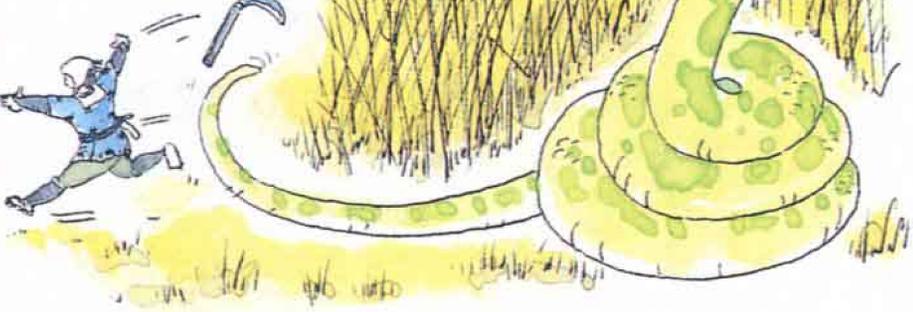
お米屋さんの団体「富士米穀卸(株)」青年部の皆さんは、毎年暮れに精神薄弱児の施設市立ふじやま学園を訪れ、園児たちとともにもちつきを行っています。昨年は12月4日に総勢17人が訪れ、20うすのもちをつきました。

昨年は特に20回目を記念して、ポン菓子と赤飯のおまけもついたことから、ペッタン、ペッタンに、ポン菓子の音もまじり、にぎやかで楽しい時を過ごしました。

ふるさとの昔話



▷蛇塚があったという大和同園の遺跡



大淵 大峯山の蛇塚

ことしは巳年。つまり蛇年です。昔、大淵の丸火自然公園東側付近に大峯山の蛇塚と呼ばれる塚がありました。今回は、その塚に伝わっていたお話です。

カヤ刈りに行った農民

丸火自然公園の東側に、昭和の初めごろ「心教本部不二大和同園」という宗教団体がありました。その境内には大峯山の蛇塚と呼ばれた塚があったといわれています。昔、大淵の丸火自然公園のあたりは、遠く人里離れた山奥でした。ある日、上和田の農民が一人でこの付近へ草刈りに行きました。大峯山のふもとにはカヤがいつぱい茂っていたので、「これはよい場所だ」と思って刈り始めました。

丸太のような大蛇

農民がふと足元を見ると、大きな丸太がありました。足でそれを取りのけようとすると、なんと丸太は動き出すではありませんか。「はて？」と思ってよく見るとそれは大蛇でした。しかも、かま首をもたげ、舌を出して、今にも飛びかかってきそうでした。びっくりした農民は、気を失い

そうになりましたが、一目散に家まで逃げ帰りました。農民は、家まで着いたものの顔が真っ青で、震えがとまらず、寝込んでしまいました。そして、とうとう朝になって死んでしまいました。

近所の人たちは「大蛇が吐き出した火をかぶったからだ」と言いました。そして、「再びこんなことがあつては」と心配して、大峯山に蛇塚をつくりました。

大蛇が出そうだったよ

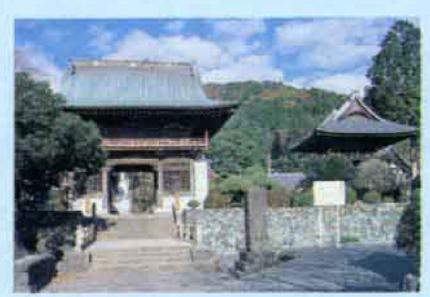
現在、大峯山を管理している大淵三丁目の後藤広瀬さん(六十八歳)は「大蛇の話は子供のころ年寄りから聞いたことがあるよ。大峯山のあたりは今でこそヒノキ林だけど、昔は一面カヤ畑だったね。本当に大蛇が出そうなどころもあったよ」と語ってくれました。



▷後藤広瀬さん

地名の由来

い 岩
も と 本



△実相寺

岩本山の南斜面には縄文時代から人々が住んでいたため、そのふもとの岩本村の成立はかなり古い時代からです。実相寺が智印上人によって開創された久安年間(二翌一吾)のころには、既に「里」と呼ばれるほどの集落であったと思われます。岩本村の岩本も、実相寺の山号の岩本山も、ともにかたい岩石の岩本山のふもとという意味と思われれます。

こちら編集室

ことしは富士市にとってまさに国際化元年。新年早々、中国嘉興市との友好提携を控えているとあって、新年号は嘉興市特集とさせていただきます。言うまでもなく友好都市は提携後が大切。友好の輪が多くの市民の皆さんに広がるよう国際化した紙面づくりに励みたいと思います。ことしもどうぞよろしく。